

# せいい乳児院の窓から

第123号 2020年9月



新型コロナは落ち着くどころか、昨日（9月2日）の県内の感染者数はこれまでの最多を記録しました。誰が感染してもおかしくない状況になっています。8月の予定していた健民プールは、残念ながら中止にしました。それでも何とか楽しみたいと思い、院内のビニールプールで水遊びを楽しみました。子どもたちはお部屋でかわいい水着に着替え、うきうきとベランダに用意されたプールに向かいました。

9月はいしかわ動物園、10月は味覚狩りとお出かけする行事があります。新型コロナの感染状況を見ながらですが、子どもたちと楽しみたいと思っています。

今号から、紙面を広げました。子どもたちと生活する職員の生活の工夫や悩み、喜びや試行錯誤など率直にお伝えできればと思っています。また、来年完成する新乳児院、建物とともに新しく取り組む予定の事業について、紹介していきたいと思っています。  
(院長 中村秀人)

## 夏のようす



### ・ピクニック・

新型コロナウイルスの影響で5月に予定していた遠足を中止しました。その代わりに、少しでも楽しんでもらおうとお部屋でお弁当を食べました。お部屋にはシートを敷き、みんなで輪になって座り、ピクニック気分を味わいました。

お弁当は栄養部さんが趣向を凝らして作ったものです。子どもたちはいつもと違うランチタイムを楽しみました。



### ・七夕・

7月7日は七夕です。笹はかわいらしい飾りとお願い事を書いた短冊でいっぱいです。



飾り付けには子どもたちが作ってくれたものもあります。みんなのお願い事が叶いますように！笹の前で記念写真を撮りました。



### ・夏祭り・

7月30日に夏祭りを楽しみました。

子どもたちはみんな甚平に着替えて始まりを待ちます。ワクワクドキドキ！まずは大人の催しで、絵本「くだものさん」と「おめんです」の読み聞かせで始めました。食事会は、たくさんの料理が並びます。お好み焼き、クリーミーごはん、ウィンナードック、からあげ、エビフライ、みそきゅうりなどをバイキング形式でいただきました。ほかに、流しデザートやお楽しみのスイカ割りを行いました。みんなで少し



ずつひびを入れて割ったスイカは、おいしく食べることができました。

後日、スイカの絵を見るたびに「スイカパッチンしたね」と子どもたちは話していました。良い思い出になったようです。



### ・聖母マリア被昇天祭・



8月15日は聖母マリアが現世での生を終え、天に召されたことを記念する日です。子どもたちは聖堂のマリア像の前に集まり、シスター粉山のお話を聞きました。その後、みんなで「マリアさまの心」を歌い、一人ひとりお花をささげました。



### ・食育活動・



7月12日に枝豆のさやとり、23日にトウモロコシの皮むきをしました。どちらも、どんなふうになっているのか、重さや匂いなどを体験し、食べられるようになるまでの作業を体験しました。

初めて見る調理前の野菜の姿に少し緊張ぎみの子どもたちでしたが、初めから一人でやろうとする子、大人と一緒にする子、コツをつかんだら一人でもくもくと進めていく子、それぞれのペースでやっていました。味見もたくさんして、野菜の美味しさを改めて感じることができました。



## 泣いたり笑ったり

「泣いたり笑ったり」は、子どもたちを一人ひとり紹介します。子どもたちはみんな、生後間もない子もはっきりと分かる個性を持っています。わずかな表情の変化、さりげない動き、自分の気持ちを大人に伝えようとするしぐさ、そばにいることで分かる子どもの気持ち、どの子もいとおしく感じます。今回は2人の子についてお伝えします。

### かもめ組 Tくん（9か月）

にこにこ笑顔がとってもかわいいTくん。最近はずり這いを練習中です。「おいで〜！」とTくんを呼ぶと、少し進んでは休憩、また少し進んでは休憩、とマイペースにこちらへ向かってきてくれます。抱っこすると、「僕頑張ったでしょ〜？」と言わんばかりの得意げなかわいいお顔 😊！  
いっぱい動いて大きくなあれ！

### つばめ組 Cちゃん（2歳6か月）

お友達がおもちゃの取り合いをしているところにCちゃんが「けんかやめて」と言いながら、お友達の間に入り、けんかを止めていました。そして、おもちゃがなくて泣いているお友達に、Cちゃんが持っていたおもちゃを渡していました。とっても優しいお姉ちゃんのCちゃんでした。



## 大人の思い -毎日をふり返って-

家庭でお母さん、お父さんが子育ての楽しみを感じながらも、時に子育てに悩む。乳児院の職員も父母と同じような喜びと悩みを味わいながら子どもたちと過ごしています。

乳児院には、「ひとりひとりの生命を尊重し、愛の精神に生きる」という理念、「子どもの健やかな成長と安定した家庭生活」を支援することをはじめとした事業目標、「子どものこころに寄り添いながら、子どもとの愛着関係を育む」から始まる養育目標があります。

このような目標をふまえて、職員ひとりひとりが年度はじめに「私の養育目標」を3つ作り、2か月に1回、具体的な出来事から自分をふり返って文章に表します。3年前から始めた取り組みです。目標は、子どもとの関り、自分自身のあり方、職場の仲間との関係などについてです。「子育ては自分育て」という言葉がありますが、子どもたちから自分のあり方を学ぶ姿勢を大切にしたいと思います。これまでの職員の振り返りを拾い出して、私たちの思いをお伝えしたいと思います。



- 体調をくずす子もいたが、その子に合わせた過ごし方ができるよう心がけた。子どもの要求をただ受け止めるだけではなく、その子の月齢や理解に応じて、してはいけないことを伝えていく必要性を感じた。子どもに合わせて、大人の対応も少しずつ成長（上の段階に）、進化させていくことをもっと意識してみようと思った。



• 保責（保育責任者）の時はできるだけ冷静に落ち着いて物事を考えようと意識したが、面会や受診で忙しい時など、自分が一番バタバタしてしまっていたと思う。また、担当児の試し行動や甘えが増え、その子が分かりやすいように、その子に応じた関りをしなければいけないのに、言葉だけの注意になってしまうことが多かった。

• 朝ごはんの時、自分が見ている子が早く終わった時など、自分が知っている数少ない歌や手遊びで笑ってくれた時、とてもうれしい。

- 「自分で！」と言って、身の回りのことをやりたがる子の気持ちを受け止め、見守ったり、さりげなく手伝

って自分でできた喜びを共感できた時もあったが、時間がない時、やりたい気持ちに気づかないふり、ごまかしてしまった時があった。時間がない時こそ、工夫した言葉かけ、働きかけをするべきだった。

- 担当部屋が変わったばかりで不安もあり、遅番の時間帯は特に子どもの不安が強いことが多い。1人で部屋を見る中で、落ち着いてほしいと思うが、どうしたら不安を取りのぞくことができるのか。抱っこして大丈夫だよくらいしかできないけれど、他にすることがあっても、今すべきは子どもが安心して過ごせるようにすることだと思い、すべてを後回しにしてみた。

## 乳児院改築 -建物と新事業-

3年前から進めてきた聖霊児童施設は、今春こども園が完成し、第2期工事として乳児院と本部管理等の工事が始まっています。現在、基礎工事が終わり鉄骨の組み上げが始まりました。来年1月末に完成予定です。

新乳児院は、小規模養育を実施するために、定員6名以下のユニット3室と新生児室1室を中心に構成されます。各ユニットには台所や風呂・トイレを配置し、家庭的な雰囲気

が醸し出されるように設計しました。家庭のお茶の間でくつろぐように子どもと関わり、台所で料理する音や匂いを感じながら過ごす。子どもたちと職員の間で愛着形成がより豊かに育まれることを願っています。

各ユニットには、月齢が異なる子どもたちが一緒に生活します。現在のよく似た月齢の子が一緒に生活から少しずつ変えていく予定です。

建物の構成と新しく取り組む事業について、次回以降お伝えしていきます。



基礎工事が終わり鉄骨組み上げに入る工事現場

## ご支援ありがとうございました。

2020年4月1日から8月31日までに、寄付・寄贈にご協力いただいた方々のご紹介をさせていただきます。

### 【寄付金】

武内利夫 島津幸子 匿名の方4人 篤志家1人 上坂トシエ 鈴木香世子  
国際ソロプチミスト金沢 中日新聞社会事業団北陸支部 明治安田生命金沢支社

### 【寄付物品】

久田奈津紀  
100万人のクラシックライブ 日本コカ・コーラ 合同会社マナブル フレーベル館  
株式会社明治 APバンク 押野赤十字奉仕団

(敬称略)



■編集・発行 聖霊乳児院

〒920-8551 石川県金沢市長町1丁目5番30号

TEL 076-223-2878 FAX 076-222-7589

<https://www.kanazawa-seirei.org/nyujiin/>